

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年6月16日 (2016.6.16)

【公開番号】特開2014-214270(P2014-214270A)

【公開日】平成26年11月17日 (2014.11.17)

【年通号数】公開・登録公報2014-063

【出願番号】特願2013-94354(P2013-94354)

【国際特許分類】

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

C 0 8 G 18/67 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 290/06

C 0 8 G 18/67

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月20日 (2016.4.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも下記化合物 (A)、化合物 (B) 及び化合物 (C) を反応させて得られるウレタン (メタ) アクリレートオリゴマーと有機溶媒とを含む硬化性樹脂組成物であって、該化合物 (B) を全ジオール成分の 40 重量 % 以上用いることを特徴とする硬化性樹脂組成物。

化合物 (A) : 脂環式構造を有するポリイソシアネート

化合物 (B) : 炭素数 8 ~ 16 の鎖状脂肪族ジオール

化合物 (C) : ヒドロキシアルキル (メタ) アクリレート

【請求項 2】

前記ウレタン (メタ) アクリレートの数平均分子量 (M_v) が 500 ~ 15,000 である、請求項 1 に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 3】

前記化合物 (B) として炭素数 8 ~ 16 の直鎖状脂肪族ジオールを含む、請求項 1 又は 2 に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 4】

前記化合物 (C) としてヒドロキシアルキルポリ (メタ) アクリレートを含む、請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 5】

前記有機溶媒の溶解度パラメーターが 8.0 ~ 11.5 である、請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 6】

前記ウレタン (メタ) アクリレートオリゴマーが、前記化合物 (A) と化合物 (B) を反応させてウレタンプレポリマーを得た後、これに前記化合物 (C) を反応させて得られたものである、請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 7】

請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の硬化性樹脂組成物が硬化した硬化膜。

【請求項 8】

少なくとも下記化合物（Ａ）、化合物（Ｂ）及び化合物（Ｃ）を反応させて得られるウレタン（メタ）アクリレートオリゴマーと有機溶媒とを用いる硬化性樹脂組成物の製造方法であって、該化合物（Ｂ）を全ジオール成分の４０重量％以上用いることを特徴とする硬化性樹脂組成物の製造方法。

化合物（Ａ）：脂環式構造を有するポリイソシアネート

化合物（Ｂ）：炭素数８～１６の鎖状脂肪族ジオール

化合物（Ｃ）：ヒドロキシアルキル（メタ）アクリレート

【請求項９】

前記ウレタン（メタ）アクリレートの数平均分子量（ M_v ）が５００～１５，０００である、請求項８に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

【請求項１０】

前記化合物（Ｂ）として炭素数８～１６の直鎖状脂肪族ジオールを用いる、請求項１又は２に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

【請求項１１】

前記化合物（Ｃ）としてヒドロキシアルキルポリ（メタ）アクリレートを用いる、請求項８乃至１０のいずれか１項に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

【請求項１２】

前記有機溶媒として、溶解度パラメーターが８．０～１１．５であるものを用いる、請求項８乃至１１のいずれか１項に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

【請求項１３】

前記ウレタン（メタ）アクリレートオリゴマーとして、前記化合物（Ａ）と化合物（Ｂ）を反応させてウレタンプレポリマーを得た後、これに前記化合物（Ｃ）を反応させて得られたものを用いる、請求項８乃至１２のいずれか１項に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

【請求項１４】

請求項８乃至１３のいずれか１項に記載の製造方法により得られた硬化性樹脂組成物に活性エネルギー線を照射する硬化膜の製造方法。